

スーパーグローバルハイスクール（SGH）の平成26(2014)年度指定校の事後評価を踏まえた座長所見

我々は、平成26(2014)年度から開始した文部科学省委託事業「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」のうち、初年度に指定した56指定校の5年間にわたる研究開発完了後の事後評価を実施した。

評価においては、指定3年目の平成28(2016)年度に、過去2年間の「質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備」の進捗状況に関する中間評価を実施し、研究開発等の効果的・効率的な実施と改善を促してきた。

このたびの事後評価は、この中間評価も踏まえつつ、その改善を図ってきた各指定校の取組の最終的な評価を実施することにより、各指定校の今後の取組の更なる充実やこれから取組の充実を図る高等学校等への研究開発成果の普及を目指しており、高等学校段階でのグローバルな教育の更なる発展に大いに資するものと考えている。

平成30(2018)年に公示された高等学校学習指導要領の改訂においては、平成28(2016)年12月の中央教育審議会答申を受け、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきていることを踏まえ、複雑で予測困難な時代の中でも、生徒一人一人が、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を發揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができるよう、教育を通してそのために必要な力を育んでいくことを重視している。

企画評価会議としては、研究開発を完了した指定校を含め、全ての高等学校等において、新高等学校学習指導要領のよりよい実現に向け、SGH指定校が牽引してきたグローバルな教育の更なる充実のため、SGHの取組の成果を最大限に生かすとともに、今後もSGH指定校を核とするグローバル育成を期す高等学校教育の振興を図っていただけることを期待しつつ、次のとおり所見を示すこととしたい。

1. 各指定校にあっては、中間評価の厳しい評価結果等を踏まえ、見直すべきは見直し、さらに工夫を重ねて、初期の目的を達成すべく一層の取り組みを進め、多くのSGH指定校が、概ね目標を達成し、また全国の他の高等

学校への示唆や模範を提示し、成果の普及に努めてきた。こうした5年間の取組は高く評価できる。

2. 事後評価の項目のうち、特に設置者の違いによって、高大接続の状況及び管理機関の取組並びに今後の持続可能性についての評価に違いがみられた。大学を設置している国立大学法人・学校法人と公立学校(教育委員会)においては、高大接続型の教育課程の開発・実施等において、たとえば早期履修制度の実験的試み、大学のリソースの活用事例などにおいて比較的優位性がみられた。また管理機関としての取組についても同様、公立学校にあっては多数の中の1校あるいは数校ということもあり、指定校への支援等において行政としての躊躇が見られた事例もある。今後の持続可能性については、設置者の基本的姿勢が反映され、指定校としては成果を生かしたグローバル人材育成の教育課程の継続的取組がどこまで担保されるかは、財源の問題、経営方針の問題、高等学校政策の変化の問題などによって違いがみられる。その点では持続可能性の担保については是非とも工夫し、時代の変化に対応する高等学校教育へ挑戦されることを期待したい。
3. グローバル人材育成の教育課程の研究開発・実践の状況及び事業全体を中心としていくつかの顕著なコメント等を報告したい。
  - 高校生が実際に海外での交流やフィールドワーク等に従事し、現地の高校生や大学生あるいは地域の人々との交流・折衝等を体験できたという事実は、従来の高校教育を変えるインパクトがあった。それは単にカリキュラムを変更するというだけでなく、フェアトレードなどの実際のアクションにまでつながった学びであり、活動であるという点で極めて高等学校教育に大きな影響を与えた。また高校生の意識が着実に変化し、グローバルマインドセット及びグローバルコンピテンシーの育成を図ることができたことから評価できる。
  - 当初より求めていた探究的な学びについて真摯に取り組まれ、新たなカリキュラムの開発・実践が展開できたことは、アクティブラーニングの先取りという点でも、高等学校教育改革に質的なインパクトを与え、そのことが新高等学校学習指導要領の「総合的な探究の時間」での先行的な取組につながっているという点で評価すべきであろう。

- アソシエイト校も含めると全国すべての都道府県においてグローバル人材育成の高等学校教育拠点が誕生し、各地域の特性を踏まえた多様な教育課程の開発・実践が展開されたことは、大いに評価すべきであろう。また同時に本事業が3年間ではなく5年間であり、中間評価に基づくPDCAサイクルが実質的に機能し、質の高い教育課程の開発・実践ができた点も評価できる。
- 指定校が中間評価を受けて、喫緊の地球的課題解決を目指すSDGsに各学校の特性を生かしながら、それぞれ教育課程の中に取り込み、広い視野からより深い課題意識を持ちながら、世界の課題解決の実用性と自らの責務とさらにはその解決策を探るなど、自覚的な深い学びを進めたことは、とても素晴らしいことであり、ここで示された高校生の方に期待したいものである。
- 他方で今後の課題として指摘されたコメントの中で、グローバル人材育成のカリキュラム開発・実践にとって、とりわけ「教員のグローバルマインドセット等の資質・能力の育成が求められるべきで、教員養成及び研修における内容について、海外研修も含めた事業の工夫が必要である」とするコメントが委員の間で共有されたことを報告しておきたい。

令和2年2月  
スーパーグローバルハイスクール企画評価会議  
座長 二宮 皓

## ■ 平成 26(2014)年度から S G H に指定した 56 校の事後評価の結果について \*

「評価基準・区分」ごとの結果は以下のとおり（所在都道府県順）

○「事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。」（7校）

<学校名>

- ・筑波大学附属坂戸高等学校
- ・渋谷教育学園渋谷高等学校
- ・筑波大学附属高等学校
- ・立命館宇治中学校・高等学校
- ・神戸市立葺合高等学校
- ・広島女学院中学高等学校
- ・宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

○「事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。」（28校）

<学校名>

- ・北海道登別明日中等教育学校
- ・札幌市立開成中等教育学校
- ・札幌聖心女子学院高等学校
- ・宮城県仙台二華中学校・高等学校
- ・群馬県立中央中等教育学校
- ・順天高等学校
- ・品川女子学院
- ・昭和女子大学附属昭和高等学校
- ・国際基督教大学高等学校
- ・玉川学園高等部・中学部
- ・お茶の水女子大学附属高等学校
- ・神奈川県立横浜国際高等学校
- ・横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校
- ・金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校
- ・長野県長野高等学校
- ・静岡県立三島北高等学校
- ・愛知県立旭丘高等学校
- ・名城大学附属高等学校
- ・三重県立四日市高等学校
- ・京都府立嵯峨野高等学校
- ・立命館高等学校
- ・大阪府立三国丘高等学校
- ・関西大学高等部
- ・関西学院高等部
- ・奈良県立畝傍高等学校
- ・島根県立出雲高等学校
- ・岡山県立岡山城東高等学校
- ・徳島県立城東高等学校

○「事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。」（3校）

<学校名>

- ・渋谷教育学園 幕張高等学校
- ・埼玉県立浦和高等学校
- ・愛媛県立松山東高等学校

○「事業計画を下回っており、事業目的はあまり実現されていない。」（18校）

<学校名>

- ・青森県立青森高等学校
- ・茨城県立土浦第一高等学校
- ・高崎市立高崎経済大学附属高等学校
- ・早稲田大学高等学院
- ・佼成学園女子中学高等学校
- ・公文国際学園高等部
- ・富山県立高岡高等学校
- ・福井県立高志高等学校
- ・山梨県立甲府第一高等学校
- ・岐阜県立大垣北高等学校
- ・滋賀県立守山中学・高等学校
- ・京都市立堀川高等学校
- ・大阪府立北野高等学校
- ・兵庫県立姫路西高等学校
- ・西大和学園中学校高等学校
- ・山口県立宇部高等学校
- ・熊本県立済々黉高等学校
- ・大分県立大分上野丘高等学校

○「事業計画を下回っており、事業目的はほとんど実現されていない。」（0校）

<学校名> 該当なし

\*本評価は、事業計画の達成状況について評価したものであり、学校全体の取組を評価したものではありません。

○事後評価の講評

1	北海道登別 明日中等教育学校	<p>SGH事業のアウトプットとして、「課題研究に関する国内研修参加数」「グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数」の増加など、5年間の研究過程で積極的な参加の傾向が見られる点は評価できる。</p> <p>また、研究過程を経る中で、「課題解決能力」の育成、「国際的な対話力」の育成、「情報発信力」の3つの力に有機的なつながりができたことも評価できる。</p> <p>今後は、研究終了後においても、エビデンスに基づいて効果を測定するなど、研究開発で得た手法などを実際に生かしていくことを期待する。</p>
2	北海道札幌開成 高等学校・市立札幌 開成中等教育学校	<p>SGH事業を通して、大学との連携による単位履修制度を「キャリア探究」という学校外の学修として教育課程に位置付けた点など、高大連携が強化されたことが評価できる。</p> <p>また、生徒においては卒業後も海外大学進学者が増えていること、大学在学中の留学者数が大幅に増えていることやトビタテ！留学JAPANの申請が常態化していることなどSGHの成果を生かした教育活動が展開されていることも評価できる。</p> <p>今後は、これらの成果を生かして、共通のグローバル人材像を明確にし、全校をあげて取り組む体制づくりに期待する。</p>
3	札幌聖心女子学院 高等学校	<p>SGH事業を通して、グローバル・マインドを持つ人材の育成を図るために、「グローバルイシューズ」という学校設定科目を設け、探究学習・問題解決学習を推進すると同時に、海外研修等のプログラムを工夫し、さらには各教科・科目において探究学習の要素を積極的に取り入れるなど、多層的な教育課程の開発・授業改善を行った取組は評価できる。</p> <p>また、研究開発を進める際にテーマを絞ることで効果をあげた点は評価できる。研究開発終了後は、これらの成果を全体に生かすために、海外研修等への参加者を増やすなど、成果の普及と展開に期待する。</p>
4	青森県立青森高等 学校	<p>SGHの研究開発の5年間において運営指導委員の助言や研究開発2年間を評価した中間評価を踏まえて取組を見直し、修正が適切に行われた結果、例えば、生徒がより自律的・主体的に取り組むことができるようになった点などは成果である。</p> <p>また、大学と連携してPBLの授業等を取り入れるなど大学との連携が進んだのは評価できる。一方でグローバル人材を育成するカリキュラムを通じて、生徒にどのような変容をもたらしたのか等、エビデンスに基づき実証していくことが必要であったと思われる。</p>

5	宮城県仙台二華 中学校・高等学校	<p>SGH事業を通して、地域の財である北上川を教材として生徒たちがフィールドワークをし、さらにカンボジアでのフィールドワークを実施しているが、生徒を主体にして、大学で実施するようなレベルでフィールドワークを本格的に実施している点、また、大学と連携して探究を進めている点などは高く評価できる。</p> <p>今後は、予定されている「国際バカロレア」カリキュラムの中に、SGHの成果が生かされることや研究開発した「グローバル・マインドの育成」を図るための継続的な取組に期待する。</p>
6	茨城県立土浦第一高等学校	<p>SGHの事業を通して、対象となった生徒の働くことに対する意識の変容など、価値観にかかわる生徒の変容が根底で起こり、それが行動等にも反映されてきたことは評価できる。</p> <p>また、事業を通して、学校が様々なチャレンジを展開したり、外部からもその成果を認められる実績もあげたりしたことは評価できる。</p> <p>全体的な底上げや意識の変容が見て取れるが、一方で研究開発の後半においてその進展が思うようなものではなかった。</p> <p>今後は、得られた成果や課題を踏まえた取組が継続されることを期待する。</p>
7	群馬県立中央中等 教育学校	<p>SGH事業を通して、研究論文や発表内容についての自己評価・他者評価のためのルーブリックを研究開発するとともに、各教科のSGH化を志向するうえでルーブリックの活用を図るなど、学校教育全体を通じたグローバルリーダー育成に注力して取り組んだ点が評価できる。</p> <p>また、研究開発した学校設定科目、総合的な学習の時間、特別活動、課外活動の時間がそれぞれの特性を生かして相互に関連して発展するように活用された点など、学校全体の教育課程についてカリキュラムマネジメントの観点からも優れたモデルケースとなっていると思われる。今後は、将来留学し仕事で国際的に活躍したいと考える生徒をより増やしていく工夫等、取組が今後の意欲的な留学へとつながることを期待する。</p>
8	高崎市立高崎経済 大学附属高等学校	<p>高・大・産連携による、日本を牽引するグローバルリーダーの基盤づくりという当初の計画に沿った内容で実施されている点は評価できる。例えば対象生徒が大学生となり、高校生へアドバイスする立場として参加したり、関係者間での会議が頻繁に行われたりするなど、大学との連携が進んでいる点は評価できる。一方で、研究開発した課題研究を中心とした科目で得た成果等を公民や英語科等の関連する教科・科目との連携を通じて継続して取り組んでいただくことを期待する。</p>

9	埼玉県立浦和高等学校	<p>SGH事業を通じて、総合的な学習の時間での探究学習について外部専門家の指導を特設する等、学びの質が向上するための専門的支援の仕組みが効果的に運用されたことは評価できる。</p> <p>また、研究開発した海外研修でのフィールド調査を充実するなどの工夫が行われ、とりわけ長・短期派遣と長・短期受入れの実績が向上しており、双方向型の国際交流事業の展開は高く評価できる。</p> <p>ただし、海外研修の成果を発表する場において、生徒が「見てきたこと」「聴いてきたこと」のまとめのみならず、生徒たちの主体的な取組による成果についても報告するなど、今後、報告の仕方の工夫などが改善されることを期待する。</p>
10	筑波大学附属坂戸高等学校	<p>SGH事業を通じて、対象とした生徒のみならず、全生徒を視野に入れて、課題研究が各教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動に及び、教育課程の全体を通して多面的・重層的に研究開発され、成果が出ている点が高く評価できる。</p> <p>また、研究開発中に、SDGsを切り口とした年間指導計画の見直しを行ったことで、本事業で取り組んだ研究課題とグローバルな課題の関連性に生徒が注目するようになるなどの変化も確認された点等も評価できる。</p> <p>総じて本事業を通じて実施した取組の成果が出ており、その成果を踏まえて海外との機関等とも組織的につながり、成果を発展させるための計画につながっていることはたいへん評価できる。</p>
11	渋谷教育学園幕張高等学校	<p>SGH事業での中間評価の結果に基づいて、研究開発の後半において教科間のつながりを改善し、全学的な取組となるよう推進しようとした点は評価できるが、教科横断の取組学年を超えた取組となるまでにはさらなる改善が必要であると思われた。</p> <p>一方で、研究開発の最終年度において、高校生の大規模な国際会議を日本で開催し、生徒の自主的な参加が図られた点や、国際会議開催に付随する形で、ホストファミリーの引受けや発表会の参加等、保護者を巻き込んだ国際交流の活動が行われたことは評価できる。</p>
12	渋谷教育学園渋谷高等学校	<p>研究開発で設定した難しいテーマを外部との機関との連携により、外部講師によるより高度な支援を受けることで生徒の理解をより深めようとした点、またそれにつなげるため、併設の中学校の授業から動機付けをするなど、様々な工夫が評価できる。</p> <p>また、5年間の研究開発を通じて、企業・機関の参画、生徒の外部機関から受ける表彰の数、帰国・外国人の受入れ人数が非常に多くなったこと、取組を通じて、グローバルリーダーとして貢献したいという生徒の割合が増えている点などが評価できる。</p>

	(渋谷教育学園渋谷高等学校)	<p>いかにして「行動できるリーダーの育成」につなげるかという目標に対して、国内での研修や高校生国際会議においても生徒の積極的な行動が見られるなど、総じて外部機関からの評価も高いことなど高く評価できる。</p>
13	早稲田大学高等学院	<p>「多文化共生社会を創造するグローバル人材の育成」という目標に沿って研究開発した総合的な学習の時間を活用した多文化共生についての探究活動や第2外国語によるインタビュー活動は、学校の特色を生かした取組として評価できる。</p> <p>しかし、これらの取組に限られた教科内の取組であったり、教育課程外の取組に限定されたりするなど、全学的な取組となっていない点やそれぞれの取組が教育課程の研究開発とどのように関連付けられ取り組まれているのか等、改善が必要であったと思われる。多文化共生的な環境に生徒を置くことで、目標の達成が可能であるとの理解に留まっているように見受けられた点も改善が望まれる。</p>
14	佼成学園女子中学高等学校	<p>SGH事業での研究開発において、教師たちの意識の変化、また今後の授業方法の改善に向けての取組の可能性が示されている点は評価できる。また、その成果を対象とした生徒だけではなく、対象以外の生徒へも広げ、学校内で普及を図った点も評価できる。</p> <p>ただし、それぞれの取組がテーマとどのように関連付けられ相互に関連付けられているのかという点からみれば、各論的な取組に留まっている点について、改善が望まれる。</p>
15	順天高等学校	<p>研究開発年度が進行するとともに対象生徒を増やし、それに伴ってルーブリックなど評価の仕組みを開発したこと等は、グローバルリーダー育成に資する教育のための有益な知見を提供するものとなっており評価できる。今後は、生徒全員を対象として育成すべき資質・能力についての研究を継続されることを期待する。</p> <p>研究開発を通じて、教師からの様々な提案による新たな活動が生み出されて実施されているところは、今後の持続可能性につながると評価できる。</p>
16	品川女子学院	<p>SGH事業の各取組の役割と構造も明確であり、それぞれの取組に真摯に取り組まれた様子は評価できる。加えて、研究開発期間を通じて、本事業を通じた生徒の成長に対する意義について教師たちの理解が形成されている。そのため、教師たちが事業そのものへの実施、さらには授業改善への意欲的な取組につながっており、この点は高く評価できる。研究開発終了後においても、育成した6つの力（問題発見力・共感力・内省力・発信力・英語コミュニケーション能力・英語プレゼン力）を身に付けさせることを目指しながら、どれほど身に付いたのか、検証の仕方を工夫することが望まれる。</p>

17	昭和女子大学附属 昭和高等学校	<p>SGH事業での研究開発において、海外の大学（日本校）での早期履修・単位取得制度が開発されるなど、効果的にグローバル人材を育成するための取組がなされたことが評価できる。</p> <p>また、研究開発に伴う生徒の負担や教師の働き方改革などの視点も取り入れ、積極的にその改善に向けて計画・実施されたことが評価できる。</p> <p>今後は、取組により得られた成果が対象外の生徒にも普及・展開されることを期待する。</p>
18	国際基督教大学 高等学校	<p>これまで帰国生徒の受入れを主たる目的として展開されてきた長年のカリキュラムの実績を踏まえて、SGH事業の研究開発を通じて、SGH課題研究講座やスタディツアーの開発・実施を中心に研究開発が行われてきたことが評価できる。</p> <p>また、本事業への取組を機に、留学や海外研修への送り出しだけでなく留学生を受け入れることでグローバル市民育成の環境を整えたことも評価できる。</p> <p>研究開発終了後においても、引き続き、生徒に身に付けさせるべきグローバルリーダーとしての資質の習得の程度の検証がなされることを期待する。</p>
19	玉川学園高等部・ 中学部	<p>SGH事業を通じて、特に英語で発信する機会が際立って多いこと、特に、頻繁にホームページの更新があることなど、学園全体としてグローバルスタンダード化に積極的に対応していること、管理機関独自の人的・財政的支援もしっかり行っていたこと等が評価できる。</p> <p>また、中高一貫校ならではの特色を生かした取組となっていたことなど、研究開発を進めているうえでのモデルの一つとなる取組であったことが評価できる。</p> <p>今後は、本事業で体系的に構築した高大連携による教育課程を効果的に活用していくことを期待する。</p>
20	お茶の水女子大学 附属高等学校	<p>SGH事業において、「総合的な学習の時間」を「グローバルな諸課題について探究的に学ぶ時間」に転換し、グローバル地理、持続可能な社会の探究Ⅰ、同Ⅱという必修科目を中心とした生徒の探究的な学びを3年間で進めていくことを通じてカリキュラムとして研究開発し、成果を出したことが評価できる。</p> <p>また、その方法論等を広く普及する取組を実施したことが評価できる。</p> <p>生徒の資質能力の向上や意識の変化が顕著に見られるので、今後は、生徒が実地に身を置いて考えるという機会の提供についても期待する。</p>

21	筑波大学附属高等学校	<p>SGH事業の対象となった卒業生のインタビュー調査によると、進路選択や国際的活動への参加にSGHが影響していると答えている等、事業の効果がみられるため、卒業後の調査についてはさらに蓄積を期待する。</p> <p>特に、他校の生徒も交えた「筑波・UBC 研修」を研究開発し、単位が認定される高度なプログラムを開発した海外研修のモデル的な取組として高く評価できる。</p> <p>また、SGH指定校の幹事校、幹事機関として、将来グローバルに活躍できる人材を育成する教育を行う全国の高等学校や管理機関のネットワーク化を図ることに中心的な役割を果たしたことなど、本事業への貢献は大きいと評価できる。</p>
22	神奈川県立横浜国際高等学校	<p>SGH事業においては、国際情報科および国際科すべてを研究開発対象生徒とし、課題研究に関連する英語合宿、バングラデシュ・ベトナム・カンボジア・マレーシアへの海外スタディツアー、大学院生による講演会やピアサポート、総合的な学習の時間における課題研究の取組を通じて、生徒たちの学習への取組や態度、姿勢の変化、また、SGHを通して自分自身の成長を実感している生徒が増えたことなどが高く評価できる。</p> <p>また、これらの取組を通じて、CEFRのB2レベルに達している生徒の割合が75%に達したことなどが評価できる。</p> <p>この取組で開発・実践してきた教育課程は、「総合的な探究の時間」につながる「総合的な学習の時間」の研究開発であり、今後、多くの高校の教育課程や授業実践に大きな影響を与えることが期待できる。</p>
23	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	<p>この学校の特徴である理数系カリキュラムを志望して入学した生徒が多い中で、グローバルスタディーズⅠ、Ⅱ＆Ⅲ、サタデーヒューマンスタディーズ、グローバルスタディーズ特別講座、SGH国内外研修（交流プログラム、現地調査）など、本事業の目指す人材育成のための活動が広く計画・実施され、その取組によってグローバルな知識や理解が深まっていることなどもグローバルリーダーを育成する取組として評価できる。</p> <p>また、高大連携を深化させ、課題研究発表を審査する枠組みを確立し、新しい機会を提供できている点など、現地コミュニティの多様なリソースを活用し、人材育成に貢献できたことも評価できる。</p> <p>また、SSHとの連携、相乗効果に関する分析は、他校への参考材料となるため、今後はそれらの経験に基づく利点・留意点の整理、状況共有を期待する。</p>

24	公文国際学園中等部・高等部	<p>5年間の研究開発により、総合的な学習の時間の活用、その他の教育活動により、グローバルリーダーを育成するための取組により、海外大学へも進学者を送り出すなどの一定の成果を得ていることは評価できる。</p> <p>また、SGHにより生徒間の学年を越えたつながりやそれを継承、発展させたことや、他校生らとのつながりができたこと等も本事業の成果と評価できる。</p> <p>一方で、研究開発の中心となった模擬国連プログラムについて、本事業で研究開発したカリキュラムとの関連が明確でなかったこと等、カリキュラムに位置付けて実施する必要があったと思われる。</p>
25	富山県立高岡高等学校	<p>SGH事業を実施することによって、自主的に留学・海外研修に行く者、国内大会入賞者数、CEFRのB1以上、大学在学中の留学・海外研修者数等の数値が増加していることは評価できる。</p> <p>また、今後「とやま型スーパーグローバルハイスクール事業」として再構成し、異文化理解、生徒の海外派遣等のノウハウを他校にも普及させるとしていることは、事業を積極的に持続、普及させる方向として評価したい。</p> <p>一方、資質能力の育成手順や方法、生徒の変容などの検証が行われなかった点等、今後検証していくこと等を期待する。</p>
26	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校	<p>SGH事業によるカリキュラム研究開発の特色は、「地域から世界へと発展し、「自己の生き方」にもどる一貫した課題研究」にあり、さらにSDGsに基盤を置く「グローバル課題研究」カリキュラムの開発にまで深化・発展させたことが評価できる。</p> <p>特に、教師の意識が変化したことで、各教科等の授業方法の改善が遂げられたという点が高く評価できる。</p> <p>また、管理機関である金沢大学のグローバル人材育成推進機構との密接な連携を基盤として、高大接続について様々な取組がなされている点が評価できる。</p>
27	福井県立高志高等学校	<p>SGH事業のカリキュラムの研究開発において、新たに「グローバル」という授業を開設し各年次に沿った内容で授業が行われた点は評価できる。</p> <p>また、評価の方法や生徒の変容についてデータがうまく取れていないこと、生徒が積極性に欠けるなどプログラム当初に気づくべきことや途中で修正できそうな課題も多く、軌道修正できなかった点について詳しく分析する必要があったと思われる。</p> <p>今後は、評価の方法や生徒の変容に関する検証などPDCAを生かして検証することが望まれる。</p>

28	山梨県立甲府第一 高等学校	<p>SGH事業で実施した国外での実地調査を通して、8～9割の生徒が論理的思考力、判断力を高め、行動力を身に付けたと実感していることは評価できる。</p> <p>また、自主的に留学又は海外研修に行く生徒数や企業や国際関係機関の参画数の増加、外部検定における準一級合格者の倍増など、目標値を上回ったことは評価できる。一方で現状の問題の分析について、研究開発したグローバル探究1～3の指導法やテーマの取り扱い方、学外との協働のあり方、海外研修のあり方など、事業の内容に直接関係する課題の検討の工夫が必要であったと思われる。</p>
29	長野県長野高等学校	<p>SGH事業を通して、課題研究、英語教育、海外研究などの取組が、互いに連携して取り組まれ、効果をあげている。取組の成果を丁寧にモニタリングしながら、5年間で改善を重ねたことが、適切な成果につながったことが評価できる。</p> <p>また、教師の作業時間を削減しながら適切な個別指導の実施に取り組んだり、教科間連携による横断的な学びのカリキュラム研究開発の改善を図ったりしながら取り組んだことは評価できる。SGH事業終了後も、これらの成果を継続実施されることを期待する。</p>
30	岐阜県立大垣北 高等学校	<p>SGH事業での研究開発において、SGH課題研究を1学年2単位、2学年2単位、3学年1単位の5単位を設定し、探究活動が、一般教科のコアカリキュラム的な科目として教員に捉えられるようになったのは大きな成果と言える。</p> <p>しかし、思考方法や探究の方法、及び表現面の育成に重点が置かれており、報告からは生徒がどのようなテーマでどのような体験やフィールドワークを通じて探究を進めたのか、また海外研修でどのような成果があがったのかについての記載が少なかった。</p> <p>今後について、「総合的な探究の時間」を使用して、「SD探究」実施する予定のようであるが、これらの成果・課題を踏まえて取り組まれることを期待する。</p>
31	静岡県立三島北 高等学校	<p>「生命を守る水」に焦点を当てグローバル人材育成を目指すユニークな取組であり、「地域課題に興味関心を持つ」「社会貢献に取り組みたい」との意識が増加している点はいへん興味深く、多様な観点から生徒の変化について分析している取組は評価できる。事業対象の高校生が、地元の小中学校にて発表、講義を実施し、課題探究活動の普及に生徒が大きく貢献していることが評価できる。</p> <p>全体的に、本事業が目指すグローバル人材の育成対象である生徒の意識、スキル構築の変容を時系列的に分析している点が評価できる。今後その分析をもとに開発した教材を活用し、外部との連携を広げていくことが望まれる。</p>

32	愛知県立旭丘高等学校	<p>SGH事業の研究開発において、平成24年度「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究」（平成24年度～26年度）の成果等を踏まえ、学年進行に合わせて特設されたSG科目（SG地理、SG総合（思考・表現）及びSG総合（探究））の教育課程開発を行うとともに、海外研修プログラム（ケンブリッジ大学訪問研修など）の開発において、一部の教師だけではなく、SG総合（探究）の指導体制を改革することをもって、教師全員の取組にまで発展させる試みとしたことが評価できる。</p> <p>また、3年間を通して学習を発展させ、社会課題への生徒の関心を高め、探究心、コミュニケーション力を育てる教育を実現するという点で一定の成果をあげたと評価できる。</p> <p>今後も、本取組の成果を生かし、グローバル人材育成プログラムのさらなる継続・発展を期待する。</p>
33	名城大学附属高等学校	<p>SGH事業において、設定した8点の目標の実現のため「探究学習に関わる授業」「海外研修」「ローカルフィールドワーク」「Mei jo Global Festa」「グローバルパスポート」「グローバルサロン」「グローバルリーダー講座」などの創意ある多くの取組が、構造的な計画の下で確実に実施されて、それぞれの成果・課題がエビデンスを伴って分析されていること、構想規模と内容に従って、生徒の成長、教員の意識改革、学校のカリキュラムマネジメントに十分な成果が示されていることが評価できる。</p> <p>また、他校への普及への貢献についても高く評価することができる。今後は、PDCAサイクルを回して次の段階にどのように移行するか検証されることを期待する。</p>
34	三重県立四日市高等学校	<p>SGH事業の研究開発を通じて、生徒の自主的・主体的な活動による研究発表や国際交流が促進したこと、海外高校生の受入れも積極的に取り組まれてきたこと、また地域や学校の特性を生かし、地域と連携した研究開発が進められてきたことが高く評価できる。</p> <p>また、教師の課題研究・論文作成指導のためのマニュアルが作成され、実際の指導において活用されていることも評価できる。</p> <p>今後は、生徒のグローバル・マインドの育成という面でも一定の成果が確実にみられるので、それがインパクトのある数字等で表れるまで取組を進められることを期待する。</p>
35	滋賀県立守山中学・高等学校	<p>地域の特性を重視した課題に基づく教科の研究開発であり、地域に密着した課題研究が取り組まれ、その成果が様々な機会に発表されている点や生徒の作成したプレゼン資料や発表風景写真からも、教師の指導下で一生懸命に努力をしている様子が見られた点など評価できる。</p>

	(滋賀県立守山中学・高等学校)	<p>一方で、海外のフィールドワークと課題研究の関連付けをよりしつかりとする必要があったと思われる。</p> <p>また、全体的に報告書等において、他校が見たときに参考になる「教育の視点」「事業の成果・振り返りの一般化・汎用化」の記述がなかったところ等、研究開発を実施していく絵での改善の余地があったと思われる。</p>
36	京都府立嵯峨野高等学校	<p>SGH事業を通して、年次ごとに生徒の力を伸ばすカリキュラムを研究開発されているが、特に、教師の授業方法やカリキュラムマネジメントに与えた影響が大きく、本事業の実施を通じて明らかになった課題の分析と今後の展望についても認識されているところが評価できる。</p> <p>また、本事業を通して多くの教師が自身の授業を見つめ直す機会になっていることや英語の授業の改善が進んでいる点も評価できる。</p> <p>さらに、得られた成果を検証する方法も確立しつつあり、卒業生の追跡調査もしている点等、SGH事業終了後における府教育委員会の持続可能なサポートを期待したい。</p>
37	京都市立堀川高等学校	<p>SGH事業の報告などを通して、丁寧に事業に取り組み、研究開発の状況をしっかりと検証してきたことが伺える。</p> <p>また、これまでの教育課程を維持しながら、生徒の主体性に重きを置いた事業となっている。</p> <p>一方、生徒の主体的な取組を重視していることから、事業の効果が広く生徒全体にいきわたらなかったこと、また少人数ゼミと海外研究との連携、事業成果の今後の活用などもやや不十分であった。</p> <p>本研究開発では、学校全体で生徒のグローバルな課題に関する興味関心と意欲を高め、具体的な課題について探究的に学び、海外研修を組み合わせることで相乗効果を高め、現行の教育課程で育成できない点を解明することも重要であることから、今後の取組に期待したい。</p>
38	立命館宇治中学校・高等学校	<p>SGH事業の研究開発を通じて、海外より多数の生徒を受け入れ、異文化が交流する環境を築いている。プロジェクト型の課題解決研究科目を実施することを中心としつつ、グローバル人材としての生徒の資質・能力の向上において成果をあげていることが評価できる。また、ダイナミックな【課題研究】、【PBL型授業】や海外派遣、受入れのシステムなど、これまでの高校のイメージを超えた研究開発・実践が行われてきたと評価できる。</p> <p>それらを支えているのは、一部ではなく全体の教職員の協働、教師自身の「課題探究型」への転換を図るための教員合宿、海外研修</p>

	(立命館宇治中学校・高等学校)	<p>等による徹底した教員育成への取組にあり、とりわけ若手教師の成長が顕著となり、カリキュラム改革への若手教師からの成果を踏まえた発案により発展させている点が目に見えた成果となっており高く評価できる。</p> <p>同校の高く評価される点は、教師の成長を生徒の成長と同等に重視しているところにあり、本事業全体の発展を根底で支え、自覚的に推し進めてきたマネジメント力の賜物でもあると評価できる。</p>
39	立命館高等学校	<p>SGH事業を通じて、PDCAサイクルを意識したきめ細かな指導体制が確立されたこと、大学との積極的な連携や、国際フォーラムの開催等は高く評価できる。</p> <p>また、課題研究と関係した非常に数多くの取組や国内外の研究旅行等、多くの学びの機会が生徒に提供された点も評価できる。</p> <p>難しいテーマへの取組であったため、多くの困難があったと思われるが、今後に向けた課題も明確となっており、研究開発終了後も継続して取り組むことに期待する。</p>
40	大阪府立北野高等学校	<p>SGH事業を通して、特に生徒の意識の変化が多方面から分析されている点が評価できる。課題研究SGH関連講座受講生を対象としたアンケートは質問項目も多岐にわたり、重要な情報が網羅されていると考えられるため、今後、専門家の指導のもと丁寧な解析とその解釈が求められる。</p> <p>今後は、この取組の強みをもう一度見直し、どの分野を強調・継続していくのかを管理機関と共に分析し、活動の強化につなげることを期待する。</p>
41	大阪府立三国丘高等学校	<p>SGH事業の研究開発において、課題研究(Creative Solutions I, II, III)を核とするグローバル人材育成教育課程の開発研究を行い、2年次の課題研究(分野別グループ学習)の一環として海外研修プログラムが位置付けられ、分野別課題研究で得られた仮説を「検証・考察」という主旨で実施されている点、とりわけアメリカとフィリピンの大学の協力を得て展開されるビジネスプラン作成を意図する海外研修(講義や企業訪問など充実した1週間のプログラム)の開発・展開には多くの生徒も参加するなど優れた取組として評価できる。</p> <p>また、民間企業の研修を受け、特色ある「評価ポートフォリオ」を開発・展開している点も評価できる。こうした多様な評価手法を用いることで教育課程の有効性を検証している点は特に高く評価できる。その中で、もう一つのテーマである「失敗すること」の教育的意義を重視し、生徒の学びを多面的に捉えていることも大いに参考となる。</p>

	(大阪府立三国丘高等学校)	今後の継続性については、同窓会の支援によってアメリカ及びフィリピンでの海外研修が継続できるとのことで、この海外研修がグローバル人材への準備において、さらに効果的なものになることを期待する。
42	関西大学高等部	<p>SGH事業の研究開発において、学年を10に分割し、グループゼミを中心とする課題研究を大学からの年間にわたる継続的な支援を得ながら取り組んだこと、特に少人数グループによるゼミを多くの大学教員と高校の教師が協力して指導することで大きな成果をあげているところが評価できる。特に、研究全体を見通すことができるコンピテンシーやリテラシーの一覧マップを作成したり、どの学年でどの分野を中心に組み合わせるかといった全体図を描いたり、こうした全体像を常にイメージしながら個々の教員や個々の事業の伸展を進捗管理する仕組みを持ったことは高く評価できる。</p> <p>また、評価活動の指標の均一化、多様な生徒のニーズに合った柔軟な指導、中高連携の重要性、地域連携により人材像の共有など、多岐にわたる問題分析となっている点が今後の持続可能性に連携するものとして高く評価できる。</p>
43	兵庫県立姫路西高等学校	<p>5年間の研究期間の2年目と5年目に学科編成を変えるという変化、それも、その都度、新しい科目を設定するというかなり無理と思われる変更を伴った変化を経ながらのこの事業の遂行には、かなりの困難があったことが想像される。</p> <p>類型や学科の改編がありながら、学校設定科目「知の探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を中心にグローバル課題を探究する教材開発を行い、海外大学や国内での観光、地域産業とのビジネス課題についての研究に取り組んだ結果、グローバル・マインドセットが育成され、英語運用能力も増大したことは評価できる。</p> <p>SGH活動の課題も論点が絞られており、今後SGH対象以外の生徒にも波及する取組を期待する。</p>
44	神戸市立葺合高等学校	<p>本取組は、グローバル人材育成を図るため、国際科に学校設定科目「グローバルスタディーズ(GS)」を設け、「人文科学・社会科学の分野での先進的な教育課程」及び総合的な学習の時間を活用する課題研究、国際協働学習及び社会貢献活動からなる教育課程並びに日本文化紹介などGSを支える教育課程の開発に取り組んだ。GS科目は学年配当としてⅠ(4単位)、Ⅱ(5単位)、Ⅲ(3単位)と大別され、さらにそれぞれ知識型(A)、実践型(B、ワークショップ・研究・インターンシップ・フィールドワーク)、及びリーダー育成型(C、ディベート・模擬国連参加など)に区分し、開発すべき教育課程の系統化・構造化を図っている点は顕著な特色であり、</p>

	(神戸市立葺合高等学校)	教育課程構想として高く評価できる。とりわけG S I A (3単位)は、地歴公民分野、国語分野及び英語分野の密接な協働を図ることで、国際的な分野について英語で学び、グループによる調査研究を行うこととなっている教育課程は評価できる。今後は生徒のグローバル・マインドやグローバルコンピテンシーの成長をどのように評価し、その成長をどのように可視化するかについては一層の研究開発を期待する。
45	関西学院高等部	<p>全生徒を対象とするG G Pプログラムと各学年40人選抜のG L Pプログラムの開発、それらを支える各教科や海外フィールドワーク等の授業外の取組により、豊かな実践を展開してきた。</p> <p>S G Hの開発科目への大学の関与や、大部分の生徒が進学する継続校として、高大接続による受講の可能性を省察的に模索し、実践してきたことは評価できるとともに、今後の高大接続の先進モデルとして評価できる。本事業全体を省察的、スパイラル的に発展させていこうとする姿勢は大いに評価することができる。</p> <p>また、管理機関においても、S G H甲子園はじめ、本校のみならず、近畿地区や全国のS G H等を支える取組を行ってきたことは高く評価できる。</p> <p>今後はさらに、本校の省察に応える展開についても協働されていくことを期待したい。</p>
46	奈良県立畝傍高等学校	<p>S G H事業の研究開発において、総合的な学習の時間における課題研究を核とし、各教科における授業改善や海外研修も射程としながら、着実に取り組んできた研究開発・実践は、新学習指導要領に向けて取り組む多くの公立学校の先進モデルとなると評価できる。</p> <p>また、公立高校のチャレンジとして、本校生の進路となる大学を中心に複数の大学との連携に着手した功績も評価できる。</p> <p>今後は、科目を超えた取組の実現に向けて全学的な取組となることを期待する。</p>
47	西大和学園中学校 高等学校	<p>S G H事業における研究開発において、グローバル教育をひとつの中心柱に据えて、「S G 研究」科目を選択制で単位認定するように設定するなど、他の学校にも参考になるような取組を積極的に行っていることは評価できる。</p> <p>一方で、計画性の問題やプランの妥当性、生徒の意識の堅さ、形式や手法へのこだわりなど様々な意見が報告書に記載されており、真実性がある誠実な意見が掲載されているが、研究開発中に改善を図ることが必要であったと思われる。</p> <p>学校全体で取り組んだことから、今後は、本事業と授業との関連をより強くすることを期待する。</p>

48	島根県立出雲高等学校	<p>SGH事業の研究開発を通じて、学校設定科目で課題研究が進められ、外部機関との連携を生かしつつ、国際的な社会課題について、創造的な提案を目指した学びが行われてきた。</p> <p>その実施を通して課題研究では、生徒の論理的思考力やコミュニケーション能力が身に付いたことは評価できる。</p> <p>また、教員マニュアルの作成など、人事異動にもかかわらず持続可能な取組とするための工夫を行い、「出雲モデル」と命名される多面的・多角的指導体制を構築したことが評価できる。</p> <p>全体として事業の成果が出ていると感じられるが、今後、管理機関の支援も得ながら継続されることを期待する。</p>
49	岡山県立岡山城東高等学校	<p>SGH事業の研究開発において、学年ごとに教科「GLOBAL I・II・III」を展開し、十分な時間を設定して、探究に必要な技術の習得や探究の進化、アウトプットを丁寧に実践したことなど、研究開発に対し真摯に向き合ったことや中間評価結果を受けて、教員全体で取り組む努力がなされ、学年間、学類間での要因の連携・協力が進んだ点が評価できる。</p> <p>また、岡山大学との多岐にわたる連携をはじめ、他地元大学にも連携を広げていったことや県内SGHとのつながりに始まり、徐々に全国展開へと交流を広げ、開かれた高校となっていったこと、保護者からの認識も高く、地域において取組が広く理解されていることが認められる点が評価できる。</p> <p>今後は、課題研究での社会とのつながりやフィールドワーク、地域連携等の一層の充実に挑戦されることを期待する。</p>
50	広島女学院中学高等学校	<p>SGH事業の実施において、管理機関がリーダーシップを発揮している好事例であり、教師の自主性を重んじながら統一を図ろうとした点は評価できる。</p> <p>一方、どのようなカリキュラムを開発し、それをどのような探究活動として展開し、それによって生徒がどのように成長したのかについての報告が期されていない。</p> <p>研究開発の過程において、特にアクティブラーニングの導入など、学校の授業改革への教員の意識が高まり実現された点、生徒の変容も授業の延長線上で大きな成果を示している点は評価できる。</p> <p>また、生徒を丁寧に導き、高校の専門性が足りないところは思い切って大学に預け、通常の高校生活では届かないところまで引き揚げる連携協力は素晴らしい事例だと評価できる</p> <p>さらに、成果の普及の点で、高校生の作成した冊子が他の学校で生かされたり、他校と取組内容でつながったりするなど、全般的に優れた取組・成果が確認できたと評価できる。</p>

51	山口県立宇部高等学校	<p>教育課程の開発実践において、大学との連携により教員や留学生による継続的組織的な指導を受ける体制を構築したことは評価できる。</p> <p>また、生徒の成長の評価にかかる意識調査により3年間の成長を測定し、『外国人と積極的にコミュニケーションをとろうとする「国際性」と「英語力」』は特に生徒の伸び率が高いが、自主的に留学又は海外研修に行く生徒数が少ないことについて、その理由を分析し検証する必要があると思われる。</p> <p>今後は、SSHの研究開発において、グローバル人材育成の観点を失うことなく、海外でのフィールド調査研究などグローバル・マインドやコンピテンシーの育成について一層の取組を期待する。</p>
52	徳島県立城東高等学校	<p>SGH事業の研究開発において、テーマを健康とし、テーマに関係の深い企業との連携が図られていた点や「総合的な学習の時間」を中核に各教科を発展させた学校設定教科のSGH科目が関連性をもって配置されており、各教科の特色を生かしながらカリキュラムマネジメントによって生徒たちの探究活動が内容面、方法面からサポートされて展開されるように工夫されている点が評価できる。またインドネシア研修については希望者が倍増しているなど、インドネシア研修・フランス研修の継続、国際交流を充実させるにあたり、管理機関からは県単独の事業に関連して支援をする予定であるなど評価できる。</p>
53	愛媛県立松山東高等学校	<p>SGH事業の研究開発において、愛媛、松山の特色を全面的にうまく活用し、ユニークな教育課程プログラムを実施していることや愛媛県教育委員会がグローバル育成についてリーダーシップを発揮して、県内の学校を基本としたプラットフォームを形成しようとしていること等は評価できる。</p> <p>今後は、県内で留まらず、広く高校生同士の交流をするなど、生徒自身が他の学校の生徒と研究内容で交流機会を継続して持つことに期待する。</p> <p>本事業の終了後も、これまでの5年間の連携をベースに継続されることを期待する。</p>
54	熊本県立済々黉高等学校	<p>SGH事業の研究開発におけるスタート時の学校全体での取組体制の遅れがみられたが、5年間を通じて、日々前向きに生徒の成長を願い向上されようとしてきた道のりにより、最終年度の段階では、今後の本校の方向性を示す体力をかなり身に付けられたことは評価できる。</p> <p>また、取組としてはいろいろと行われたが、それぞれの関係性がなかなか最後まで見えにくかった。研究開発終了後も、管理機関の</p>

	(熊本県立済々黌 高等学校)	継続支援と取組を充実させ、取組の持続と発展を期待する。
55	大分県立大分上野丘 高等学校	<p>SGH事業において、グローバル人材育成を図るため、学校設定科目「課題研究Ⅰ」を中核とし、授業については公民科と情報科の教員によるチームティーチングの授業として、また「班学習・活動」(40班)の展開についてはホームルームの教員や英語の教員も加え、とりわけ立命館アジア太平洋大学の留学生をチューターとして活用するなどの交流は組織的・効果的な取組として評価できる。</p> <p>一方で、個々には計画に沿って実施されているが、その個別の取組で育てたい力の実現度の点からの報告がなかった。</p> <p>今後については、取組で得た成果や課題を継承し、海外でのフィールド研究などの実践的プログラムの実施等も含めて、グローバル・マインドやコンピテンシーを育成されることを期待する。</p>
56	宮崎県立五ヶ瀬中等 教育学校	<p>SGH事業における研究開発では、中等教育学校であることを活用して6年間でグローバル人材を育成するカリキュラムとし、山間部にもかかわらず国内外の教育機関や研究者などとも連携し、研究開発したところが評価できる。</p> <p>また、本事業を通じて、教師の授業改善に向けての意識改革も十分に達成されており、学校教育全体への効果はあったものと評価することができる。</p> <p>さらに、地域の特性を生かし、地域の様々な資源を活用しての学習活動が展開され、それらを海外研修へと広げられてグローバルな教育成果を出し、当該校の特性を生かしての特色ある教育活動のモデルを構築することができたと評価できる。</p>